

一枝

○宅配の荷にそつと足すさくらんぼ  
この街に慣れしたつきや卯波寄す  
梅雨晴間家紋くつきり龍馬像

幸美

菖蒲見て我子を思う雨の日か  
蛍飛び川面に写る淋しさよ  
水中花あでやかさと悲しさと

富子

○まるごとの李かじりて目をつむる  
○百日紅子びとのドレス纏まといつつ  
夏空がマスクの吾を見下ろして

千代

○楊梅や眼下はるかに水平線  
○梅雨寒の部屋に流れるベーターヴェン  
野の枇杷や昔話をして歩く

文子

○ちらしずし考の作りし大しゃもじ  
○病癒えあに義兄の玉葱届くなり  
タキ百合の画かれし団扇友の作



農子

○曇天の窓よりぼさと守宮落つ

蚕豆のグリルの中に弾け音  
切枝の雑駁隠す額紫陽花

富江

七夕のコロナ終息子等の文字  
越後獅子美空「六月二十四日」ひばり忌口ずさみ  
天狗揚羽ベトナムに立つ平和かな

ゆの

○デモの少年銃口に挿すカーネーション  
○十薬とアマビエ吊って恙ない  
春キャベツざぶざぶ洗う布マスク

美貴

○散りゆきし処が浄土花ざくろ  
緑蔭にマスクはづして深呼吸  
かわほりの消えゆく闇の深さかな



丞子

○子育ての声色やはし鳥の子  
あじさいに日傘ゆりに雨がさ梅雨最中  
場所不明の花火を見んとシートベルト

郁子

○山紫陽花小さな村の小学校  
青田より話しかけられガマ蝦蟇のバス  
テレビ浸ひけコロナトランプ梅雨の闇

夕子

○ふる里にあぢさみ神社とて馳せる  
新しき日常夏のマスクかな  
同調てふ圧力夏のマスクかな

味元 昭次 作品

母方の滴りを受くたなごころ  
茫々と亡兄亡姉雲の峰  
軽トラは爺婆の足梅雨に入る

